

## 詩編 第119編 16節

「私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。」

喜びは数限りないほどの種類があり、機会がある。ほとんどの喜びは、ある一瞬の機会となる。オリンピックで獲得した金メダルの喜び。誰よりも早く、高く、強く出来た選手の喜びである。長年訓練し、まわりから期待されたことに応えられた喜びでもある。表彰台の最上段に駆けあがるときの喜びの様子は、それを見ている者の胸をうつ。この喜びだけでない、他の様々な喜びはやがて熱気が薄れてゆく。自然なことだ。

ただ、「私は、あなたのおきてを喜び」喜びは一時のことではない。あなた、と歌い呼ぶお方は永遠なるお方である。だから、喜びそれ自体永遠性をおびている。さらに、あなたのおきてを喜び、とある。おきては言葉である。あなたの言葉を喜びとも言える。あなたの言葉をどのように喜びだろうか。それは、言葉を聞く喜びである。それは、言葉を生きる喜びである。それは、言葉を生活化して味わう喜びである。これらを歌う私である。

その上で、大事な告白を歌とする。私は、あなたのことばを忘れません。忘れ難いほど、喜ばしく、永遠を私に注いでくださる、あなたのことばだから。

2021年11月7日